

# 9問・約3分(1人あたり)

## AIで生まれた余力が、どこで止まっているか

A「作業余力」、B「目的形成」、C「人材移動」の3領域を別々に採点します。  
点数の高さだけでなく、立場によってどの設問の回答が分かれたかを確認します。



経営層



事業責任者



管理職



現場社員



同じ事業・部門・テーマを一つ決め、相談せずに別々に回答する

### A | 作業余力

作業余力を、戦略余力に変えられているか

1 AI導入の前後で、どの業務の工数・品質・負荷が、どれだけ変わったかを把握している。

2 何を追加するだけでなく、何をやめ、どこまでを必要十分な品質とするかを決めている。

3 生まれた余力を個人の空き時間として残すのではなく、人・役割・予算として別の目的へ移している。

### B | 目的形成

「改善」と「目的を形成する仕事」を分けられているか

4 目的と問題が定まっている「改善」と、誰の何をやるかから形成する仕事を、別の仕事として扱っている。

5 新しいテーマを、既存事業の売上、KPI、品質基準、成功パターンだけで早期に評価していない。

6 現場の事実や相手の反応から、「誰の何をやるか」「何を価値とするか」を仮置きし、確かめる役割と時間がある。

### C | 人材移動

人が、新しい目的へ移れる状態になっているか

7 新しいテーマへ移る人について、現在の担当、会議、目標、結果責任を実際に減らしている。

8 人材を送り出した管理職や部門が不利にならないよう、短期業績の目標や評価を見直している。

9 新しいテーマの初期段階を、売上だけでなく、確認できた事実、棄却した仮説、次の判断材料によって評価している。

はい：2点

一部そうである：1点

いいえ：0点

⋮ A・B・Cの3領域を別々に採点します。

**合計点ではなく、A・B・Cの点数と、立場による回答差を見る**

i 点数の高さだけでなく、どの設問で回答が分かれたかを確認してください。